

新潟市学校図書館 支援センター通信

合同版
No.3

4つの
支援センター
合同でお届け
します

中央図書館

豊栄図書館

白根図書館

西川図書館

新潟市の学校図書館支援センターは、試行から 6 年、本格実施から 3 年が経過しようとしています。支援センターには、「読書センター」「学習情報センター」として活気に満ちた活動を進めている各学校の様子が伝わってきます。今後とも、先生方や司書の皆さんの声を聞きながら、研修会や、学校訪問、相談業務を通して、学校図書館が一層利用しやすく、活用されるように取組みを進めていきます。



◆ 寄稿 ◆

学校図書館に期待する

ソムリエの 1 本

新潟市教育委員会

伊藤 充 教育政策監



愛知県に住む友人の I 氏はソムリエの資格を持つ。ソムリエは、ワインと料理の専門知識を持ち、ワインを管理し、お客にサービスする。I 氏が最も重視するのは、「お客の状況と欲求と懐具合を見極めて、最善のワインをお客に提案すること」である。そのために、お客を丁寧に観察し効果的に会話することが大切であるという。

思えば、学校図書館司書はソムリエに似ている。丁寧な観察と効果的な会話により、子どもに最善の本を提案する。その学校図書館で「読書センター」「学習・情報センター」の取組が始まって久しい。妙案はあるのか。答えは全国に誇る学校図書館司書集団という新潟市の強みを活かすことにある。公共図書館と違い特定少数を相手にする学校図書館の司書は、子ども一人一人を熟知できる。何に関心を持ち、何に悩み、どんな仕事を夢んでいるか等の情報をあらかじめ得ることができる。その上で子どもを丁寧に観察し効果的な会話を交わすことにより、最善の 1 冊を提案できる。まさに、本のソムリエである。子どもは最善の 1 冊から心と知恵を紡ぎ出し、やがて自ら最善の本を探すようになる。これが上質な「読書センター」「学習・情報センター」を校内に作るということである。しかし、司書だけの頑張りでは実現しない。管理職の明確なビジョンと学級担任の具体的な連携・協力が必須である。組織としての学校に期待したい。

愛知県に住む友人の I 氏はソムリエの資格を持つ。しかし、まだその職に就いていない。現職の小学校長だからである。私は確信する。子どもを丁寧に観察し続け、子どもと素敵な会話を重ねてきた I 氏だからこそ、退職後、お客の心に寄り添った最善の 1 本を提案するソムリエになるであろうことを。





学校図書館活用研修

総合教育センター・市立図書館 共催

リテラチャー・サークル 講義と演習

学校図書館活用研修は、図書館を活用し、子どもたちの読書力を育てる具体的な方法を学ぶことを目的に、平成22年度から総合教育センターと図書館の共催で開催してきました。新潟大学教育学部足立幸子准教授を講師に、新しい読書法「リテラチャー・サークル」を取り上げ、4年間で全8区を対象に実施し、受講者は183名に上ります。「研修を受けて実践しました」という声が広がってきています。



◆寄稿◆ 「リテラチャー・サークル」4年間を振り返って

新潟大学教育学部 足立幸子准教授

新潟市総合教育センターと新潟市立図書館が共催して、平成22年度は西蒲区、23年度は秋葉区・南区、24年度は北区・江南区、25年度は東区・中央区・西区の小中学校の司書教諭・図書館主任・学校司書の方々を対象に、リテラチャー・サークルの研修会が開催された。

リテラチャー・サークルとは、同じ本を選んだ人が集まって、その本について話し合いながら読み進めていく読書会の方法である。1990年代から2000年代にかけて、アメリカの読むことの教育として開発された。現在の日本と同様に、そのころのアメリカでは、教科書をカバーしていくような読むことの教育が反省されて、教室において、実際の本を皆で読み合う授業が開発された。いろいろなやり方があるが、私は、日本における国語科授業の読解指導を改善するために、シカゴのハーベイ・ダニエルズ氏のリテラチャー・サークルをもっぱら紹介している。

私はこのタイプの研修を全国各地で行っているが、他の場所と違って、新潟市のこの研修で特に良かったと思っていることが3点ある。1点目は、司書教諭・図書館主任と学校司書の両方が対象になっているという点である。新潟市はすべての学校に学校司書を配置しているので、学校司書の仕

事を児童・生徒の日々の授業にどのように活かしていくか、司書教諭・図書館主任の方と学校司書の方両方に考えていただけたと思う。2点目は、研修で使用する本を市立図書館に用意していただくようになったということである。これは、各学校の学校図書館ですべての本を準備できなくても、市立図書館に依頼すれば大丈夫だという安心感につながったと思う。市立図書館の方々も、これまで学校に貸し出すというと、様々な種類の本を1冊ずつということが多かったと思うが、このような学習の仕方もあるのだということを知っていただき、学校支援にさらなるご理解をいただけたと思う。3点目は、この研修が4年間継続して、すべての地区で行えたということである。

私自身の今後の課題は、文学あるいは小説だけでなくノンフィクションの本を読み合うということについて、さらに小中学校現場に提案していくことである。たとえば、ダニエルズ氏の最近の仕事として、「インクワイアリー・サークル」(探究サークル)というものがある。そのようなものも視野に入れながら、新潟市の子どもたちが、より豊かに本を読むことができるようにしていきたいと思っている。

リテラチャー・サークル literature circle

参考

「読んで、書いて、話し合う
読書の時間」足立幸子/文
『学校図書館 2011. 8/通巻
730号』

■リテラチャー・サークルは少人数のグループで同じ本を読み、読書の楽しさや読んで感じたことを表現する楽しさを体験する読書法です。

- (1) 教師が本を紹介します。
 - (2) 紹介を聞いて、読みたい本を選びます。
同じ本を選んだ者同士が3～5人のグループになります。
 - (3) グループの中で読む範囲を決め、役割を分担します。
役割；思い出し屋・質問屋・段落屋・イラスト屋・ことば屋 等
 - (4) 一人読み 自分の役割を意識しながら決めた範囲を読み、シートに書きます。
 - (5) 役割に基づいて自分がどのように考えたかをグループ内で活発に話し合います。
 - (6) 役割を変えて繰り返し、最終的には1冊の本を読み切ります。
- グループの中で一人ひとりの役割が違うので、上手い・下手の競争にはなりません。子どもは責任を持って自分の役割に取り組み、少し難しめの本でも、仲間と一緒に楽しい雰囲気の中に読んでいきます。

学校図書館活用研修会 4年間の記録



	対 象	受 講 者
平成 22 年度	西蒲区	教諭 12 人 司書 20 人
平成 23 年度	秋葉区・南区	教諭 17 人 司書 26 人
平成 24 年度	北区・江南区	教諭 14 人 司書 26 人
平成 25 年度	東区・中央区・西区	教諭 29 人 司書 39 人



寄稿 「リテラチャー・サークルを実践して」

* 濁川小学校 高橋 裕子教諭 *

第5学年の国語「物語のおもしろさを考えて読み味わおう～注文の多い料理店～」の単元で、リテラチャー・サークルを取り入れた実践を初めて行いました。取り入れた理由は、単元の目標の一つ「考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。」に迫り、単元全体を貫く言語活動「リーフレット作り」につなげていきたいと考えたからです。

教科書教材「注文の多い料理店」を使って生活班で取り組んだ後、並行読書で読んだ宮沢賢治の本の中から1冊を選び、同じ本を選んだ子ども同士でグループを作り、1回目とは違う役割を体験させました。学校司書の協力で並行読書が充実し、2回目のリテラチャー・サークルは内容の濃いものになりました。

子どもたちの感想から、意見交換する楽しさや考えを聞いてもらえるうれしさ、人による読みの違いに気付く姿が伝わってきました。

これからも、学校司書と連携を図りながら、リテラチャー・サークルを取り入れた実践に取り組んでいきたいと思っています。

* 潟東東小学校 樺澤 智子教諭 *

「読書好き」の児童が多い反面、「高学年向きの本には目が向かない」「最後まで読み切らない」という実態も見られる5年生13名。リテラチャー・サークルを通して、読書の楽しさを味わわせ、読みを広げたり深めたりしたいと考えました。

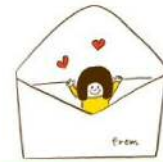
最初に1冊の本を使い全員で体験した後、「子どもが主人公の本」をテーマに児童の希望・実態をふまえ、3グループに分かれての読書活動。以前一番苦労した本の収集も、司書を通して大変手軽にスムーズにできました。

実践後、子どもたちの「楽しかったよ。」という声。「読書嫌い」を公言する児童の「初めてあんなに長い本が読めたのでよかった。また、やりたい。」という感想、話すのが苦手な児童の「1人で読むより（みんなで読む方が）いい。」という感想が心に残りました。

読書の楽しさを味わわせることはできたので、繰り返すことで「読みの広がり・深まり」につなげていけたらなあと考えています。



掲 示 板



報告 * 新たなテーマに取り組みました * 学校司書実務研修会

● 図書館だより ●

「ネタ探しに困っています。」

「著作物の使用はどこまで許されますか。」

学校図書館訪問などの際に聞かれる声を受け、「図書館だより」を取り上げました。実践発表では、たよりに込める思いや工夫の発表があり、講義では編集技術の基本や著作権について紹介しました。また意見交換では、個々の取組みが共有でき、研修全体を通してモチベーションの向上につながったという声が多くありました。(12月5日実施)



中央図書館
(東区・中央区)

● ディスプレイで

魅力的な図書館に ●

豊栄図書館
(北区・江南区)

学校図書館ディスプレイの第一人者、さわださちさんをお招きし、展示・掲示方法を学びました。さわださんが、段ボール箱や布、色画用紙など身近な材料を使い、本を展示していくと感嘆の声があがりました。学校図書館訪問では、ワークショップで作製したじゃばら折りを使った切り紙のクマやウサギ達が出迎えてくれます。温かみのある図書館づくりに役立つ研修となりました。(9月24日実施)

● 意見交換が有意義だった 「選書」の研修 ●

西川図書館
(西区・西蒲区)

年間研修テーマ「学校図書館パワーアップ！」のもと、第2回は「選書」を取り上げました。「新潟市学校図書館実務マニュアル」の「全国学校図書館協議会図書選定基準」に沿って選書基準を確認し、7グループに分かれて演習。事前アンケートをもとに選んだ7テーマの関連資料を手に取り、評価をレビューシートに記録、意見交換をしました。「選書」について意見交換ができ、有意義だったと好評でした。(9月26日実施)

● 知的書評合戦 「ビブリオバトル」 ●

白根図書館
(秋葉区・南区)

おすすめの1冊を紹介し合い、一番読みたくなったチャンプ本を選ぶビブリオバトルにチャレンジしました。参加司書全員がとっておきの1冊を熱く語ったプレゼンタイム、質問に応じたディスカッション、そして、緊張感漂う投票。学校での実践についても話し合いました。新たな読書活動、「本を通して人を知る、人を通して本を知る」というビブリオバトルをみんなで体験した研修でした。(12月3日実施)

これは便利!
ぜひ
ご利用ください。

学校団体貸出

150冊まで、1か月借りられます。

- 学校貸出図書搬送
宅配便で学校までお届けします。
- 学校貸出セット【オレンジBOX】
調べ学習や、読書活動に役立つ図書資料をテーマ毎にさらに充実しました。
- 申し込み方法やセット内容などは、学校にお届けした冊子、または「新潟市の図書館」のホームページからもご覧いただけます。



学校団体貸出冊数(各年度4月～1月)

	H24	H25
小学校	31,167冊	34,248冊
中学校	8,276	11,394
高校・他	1,781	2,721
計	41,224	48,363

貸出冊数が
全体で17%
増加しました
(前年度比)

改訂版

「新潟市学校図書館 実務マニュアル」

学校司書と支援センターで改訂作業をすすめてきました。改訂版を学校に送付しますので、内容を確認し確実に差し替えてください。

更新
お役立ち情報満載

学校図書館支援センター ホームページ

役立つ情報が満載。ぜひご覧ください。
<http://www.niigatacitylib.jp/>からアクセスできます。
新潟市の図書館>学校図書館支援サービス・学校図書館支援センター

***** 編集後記 *****

ご多忙の中、快く寄稿して下さった皆様
に心より感謝申し上げます。読むほどに学校
図書館の大切さを確認することができまし
た。図書館へのあたたかいエールがいつま
でも心に響いています。